

新庁舎特別号

- 〒183-8703 (個別郵便番号) 府中市宮西町2の24
- 代表電話 042-364-4111
- 直通電話 042-335-4129
- F A X 042-366-7752
- ホームページ <http://www.city.fuchu.tokyo.jp/>



新庁舎のイメージ 府中街道から通り庭を見る ※あくまで提案内容であり、内容は変更となる可能性があります。

新庁舎の設計者が決まりました

市では、平成27年4月から7月に府中市新庁舎建設設計者選定委員会を開催し、新庁舎の基本・実施設計を行う設計者として、「千葉学建築計画事務所・久米設計設計共同体」を選定しました。本号では、設計者の提案内容や選定までの過程、並びに審査講評などを紹介します。

今後は、「市民に親しまれ、府中らしさを受け継ぐまちづくりの拠点となる庁舎」の実現に向け、設計作業を進めながら、具体的な機能や構造などを検討していきます。

問合せは、政策課庁舎建設担当(335・4129)へ。

設計者選定までの流れ

新庁舎の基本・実施設計業務を委託するに当たり、柔軟で高度な発想力や設計能力、豊富な経験を持つ設計者を選定するため、学識経験者や副市長で構成される選定委員会を設置し、公募型プロポーザル方式により設計者を募集しました。4月14日に開催した第1回選定委員会では、これまで市民の皆さんなどからいただいたご意見を参考に、市が求める設計者としての条件を定め、提案内容のテーマを設定する募集要項を作成しました。

4月16日から約2か月の提案書の募集期間を経て、参加申込のあった39者のうち33者より提案書が提出され、仮設庁舎の有・無、高層・低層など様々な提案が出されました。

1次審査(7月6日)

第2回選定委員会を開催し、1次審査を行いました。1次審査では、提案書を提出した33者について、提案の企画力、合目的性及び実現性、実施方法やスケジュール、実施体制、提案者の説得力、知識及び支援能力などの評価基準に基づき総合的な評価を行いました。

選定に当たっては、各委員が評価項目に基づき投票し、投票した提案に対して各委員が意見交換を行いました。投票と議論を繰り返し行い、活発な議論と厳正な審査の結果、1次審査通過者として5者を選定しました。

10月11日(日)にルミエール府中で新庁舎建設シンポジウムを開催します。詳しくは4ページをご覧ください

2次審査(7月26日)

第3回選定委員会を開催し、2次審査の一環として提案者によるプレゼンテーションと選定委員による質疑を公開で実施し、非公開で最終審査を行いました。2次審査では、工期を含む建替計画のより詳細な考え方や建築物の外観、外装材の考え方、コスト縮減に対する考え方などの評価も行いました。

最終審査では、公開プレゼンテーションを踏まえ、総合的な評価を行い、各委員による投票のうえ、最優秀者、優秀者、佳作を選定しました。

◆2次(最終)審査結果◆

最優秀者	千葉学建築計画事務所・久米設計設計共同体
優秀者	NASCA
佳作 ※受付番号順	アトリエ・アンド・アイ、野沢正光建築工房設計共同体
	デネフェス・オンデザイン設計共同体
	隈・安井設計共同体

プロポーザル方式とは

プロポーザル方式は、最も優れた設計案を選ぶ設計競技(コンペ)方式とは異なり、最も適した設計者を選定するものです。新庁舎の具体的な設計・デザイン案は、今回選定された設計者と協議して決定していきます。

設計者のプロフィール



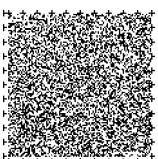
上田克行氏
(久米設計)

新庁舎の設計総括責任者。株式会社久米設計設計本部第5建築設計部統括部長。BCS賞・都市景観大賞(高崎シティホール)、日本建築家協会優秀建築選選出・まちづくりグリーンリボン賞(水戸泉町1丁目南地区再開発)ほか受賞。

千葉 学氏 (千葉学建築計画事務所)



新庁舎の設計意匠担当責任者。東京大学大学院教授で、株式会社千葉学建築計画事務所デザイン統括。日本建築学会賞(日本盲導犬総合センター)、ユネスコ功績賞(大多喜町役場)、村野藤吾賞(工学院大学)ほか多数受賞。



る 設計者の提案内容

※この内容はあくまで提案内容であり、内容は変更となる可能性があります。

建物の外観・外装材

■府中のまちに馴染み、人々の活動があふれる外観

周辺地域に配慮した、穏やかなボリューム配置の庁舎とする。「おもや」は北側住宅地への影響を抑えるため低いボリュームで計画し、「はなれ」についても低層でかつ大國魂神社側に引きを取ることで、地域の資産である神社との親和性に配慮する。

「通り庭」の随所に張り出す軒裏は全て木板貼りとし、かつての府中宿の趣を「通り庭」にもたらし。軒裏や室内など、経年劣化の影響を受けにくい箇所のみ木材を使用することで、府中の豊かな自然を映し出した外観は将来にわたって維持される。

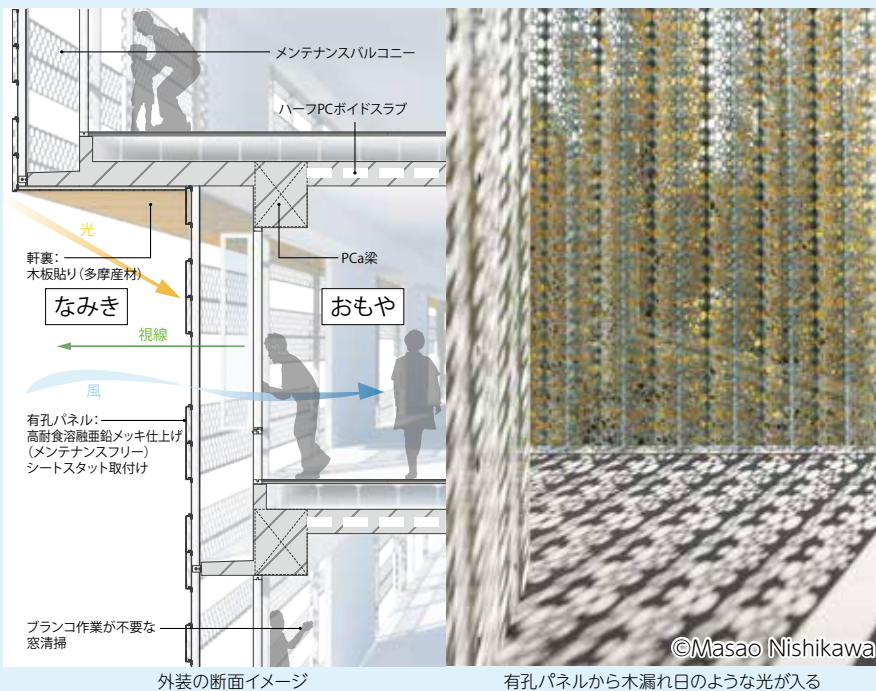


1階平面図



東側(大國魂神社)からみた景観イメージ

有孔パネルの活用



外装の断面イメージ

有孔パネルから木漏れ日のような光が入る

■周辺環境に呼応する有孔パネルによる外装

庁舎の外装は孔がけられたスチールパネルによって覆う。「通り庭」を歩くと有孔パネル越しに庁舎内の様々な活動が見え隠れし、府中らしい多彩な活動に出会える。室内は有孔パネル越しに届く木漏れ日のような光に満たされ、府中に特徴的なけやき並木の下を歩く心地よさを感じることができる。

有孔パネルは、庁舎からの視線や光漏れを適度に遮蔽するため、近隣建物のプライバシーへの配慮にも効果的。設置密度を北側の住宅地側は高く、景色の良い神社の緑地側は低くし、開口率も場所ごとに調整するなど、近隣とも親和性の高い計画とする。

■良好な室内環境を生み出す有孔パネル

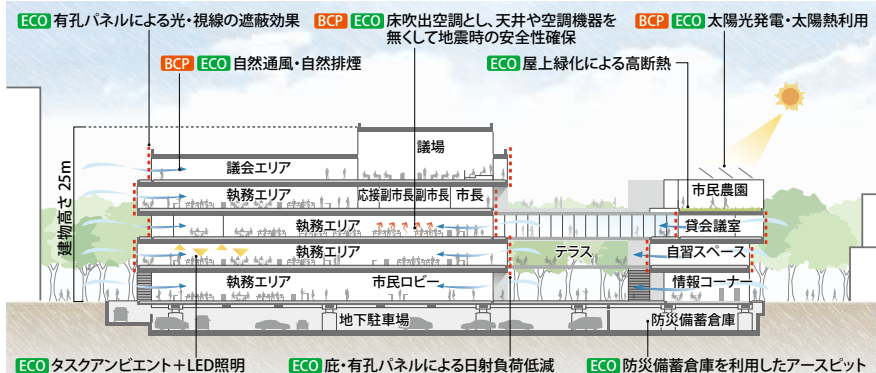
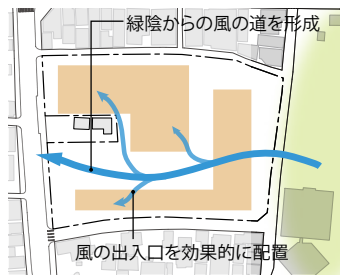
屋外に日除け効果のある有孔パネルを設置することは、屋内のブラインドやカーテンよりも遥かに省エネルギーに効果があり、特に西側に面した箇所が西日で暑くなることを回避する。具体的には室温に近い温度まで下がるので、窓面からの不快な温風射が抑えられる。

有孔パネルの内側は、ガラスと壁を適切に配置して熱負荷を抑え、ガラス部分には換気や排煙のための窓を設置し、自然エネルギーを最大限に活用した計画とする。

コスト削減などに対する考え方

■まち、自然と共生する環境計画

敷地周辺のビル風を抑え、敷地内に風の道をつくり、環境面でも敷地周辺の街並みに溶け込む作りとする。環境に与える負荷やライフサイクルコストを低減するための手法を適材適所に駆使する。自然の光や風を上手に取り込み、一年を通して少ないエネルギーで良好な室内温熱環境・光環境を構築する。



■バランスの良いコスト圧縮方法

- 仮設庁舎を必要としない建替計画
- 柱頭免震の採用による地下掘削量の最小化
- 直接基礎による杭中止
- 既存地下躯体解体範囲の削減
- 低層型庁舎による面積効率化
- 上部構造をプレキャスト化
- 外装材、サッシの規格化・工業化・ユニット化
- 天井を極力貼らないことによるコスト削減
- 豊かな経験に基づいた確実なコストコントロール

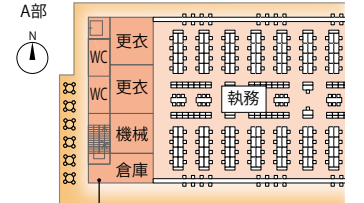
■メンテナンスの容易性

清掃は人件費のかかるブランコ作業ではなく、メンテナンスバルコニーを使用して容易に行える計画とする。「はなれ」の単独利用を可能とすることで、維持管理のコストを削減。

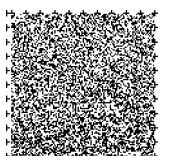
■外周廊下型による安定した温熱環境

「おもや」の窓際を人が滞りしない廊下・通路に使用し、温熱的に安定した建物内側に居室を配置することで温熱快適性と省エネルギーを両立。

執務スペースを中心に安定した温熱環境を形成



西側には壁量の多い部屋を配置
温熱負荷が大きいエリア (橙色)



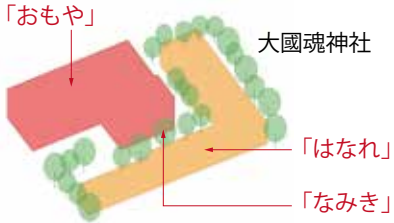
プロポータルにおける

提案内容の基本的な考え方

ケヤキに象徴される自然の美しさ、まちのあちらこちらに溢れ出る市民の活気、そして大國魂神社を始めとする数々の歴史的資産、これらの魅力を最大化する新庁舎を提案。

そこは、市民にとっても来訪者にとっても魅力的で誇らしい、府中の地でしか生み出し得ない庁舎となる。

■絡み合い補い合う3つの「L」



新しい庁舎は、3つの「L」が絡み合い、補い合っている。
「おもや」: 庁舎の主たる機能を担う。
「はなれ」: 庁舎機能を補完し、市民活動を支える。
「なみき」: 府中の象徴でもあるケヤキの並木を延長する。

■広場としての「通り庭」、路地としての「通り庭」

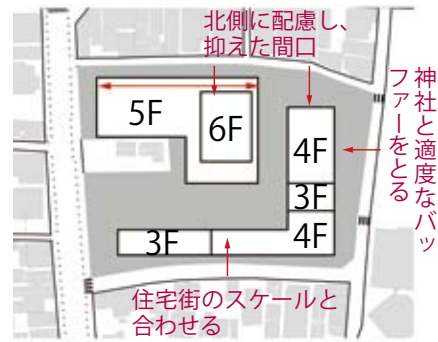
3つの「L」が絡み合って生まれる「通り庭」は、市民に開かれた広場であり路地。通勤で通り抜けたり、散歩の途中で休憩したり、祭りや市民活動の舞台になったり市場が開かれたりと、府中らしい多彩な活動が繰り広げられる場。そこは市民とともにある、自然と一体となった庁舎のシンボル空間。

「通り庭」は、軒の連なる空間。様々な市民活動スペースやラウンジが重なり合い、テラスや軒下空間をつくる。環境負荷低減に効果的な有孔パネルに覆われた外壁と軒下空間の連なる様は、さながら格子戸や看板、店先の連なる宿場町のような。店先で休憩したり隣人と会話を交わしたり、雨宿りをしたり。かつての府中宿を彷彿とさせる空間は、現在によみがえった新しい宿場町である。



「通り庭」のイメージ

■周辺環境に配慮したボリューム配置



周辺住宅地への影響を最小限に抑えた、穏やかなボリューム配置の庁舎とする。「おもや」のボリュームは基本5階建てに抑え、かつ壁面の長さも可能な限り短くし、特に北側住宅地への影響を最小限に抑える。大國魂神社側の「はなれ」は4階建てに抑えて引きを取り、地域の貴重な資産である神社との親和性に配慮した計画。



©Masao Nishikawa

模型写真(南側から)

建替計画の考え方

仮設庁舎のいらない合理的な建替計画



I 期工事

工事は2期で計画。1期工事では北側住宅地に十分配慮しつつも最大限の面積を確保し、基本的な庁舎機能を全て賄える計画。

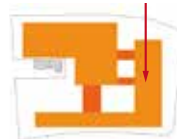
機能移転



既存解体

1期工事完了後に既存庁舎を解体し、2期工事に着手する。

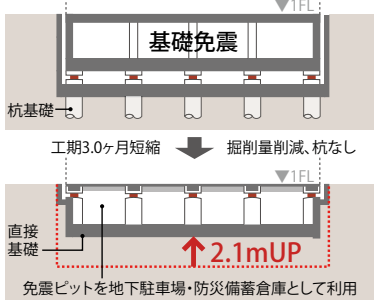
機能移転



II 期工事

2期工事完了後に第2庁舎機能や図書館機能などを移して完了。全体工期は48か月に抑えることができる。

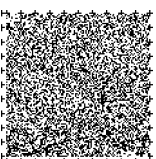
工期短縮に向けた取組



■掘削量の削減、杭が必要ない直接基礎による工期短縮
柱頭免震構造を採用し、免震ピットを駐車場などに有効利用して地下の掘削量を大幅に削減。また、低層建物で地下を1層に抑えることで、地表から出現している砂れき層を支持層とした直接基礎とする。

■利用者動線と工事車両動線が交錯しない安全な施工計画

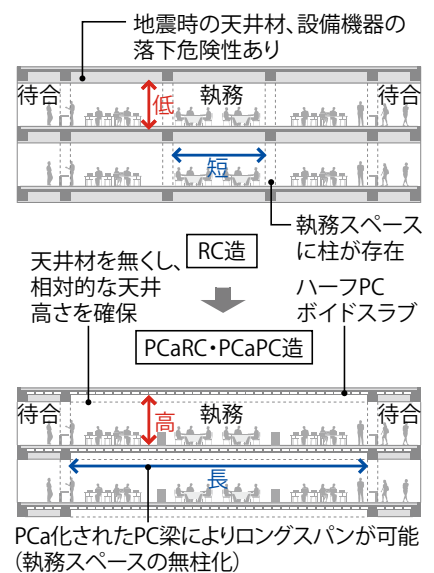
各工事では、工事車両動線を府中街道側にすることで、1期工事中の既存市庁舎利用者動線、2期工事中の1期市庁舎利用者動線と工事車両動線を明確に分離し、安全な施工計画とする。



■PCaRC・PCaPC造による工期短縮、労務リスクの削減

上部構造は高強度コンクリートを使用し、PCa化したRC、PC構造として耐久性・長寿命性を実現。ロングスパンによるフレキシビリティのある空間を確保するとともに、RC造に比べ工期短縮、工期安定化を図る。主要構造部をPCa化してコンクリート型枠工や鉄筋工の労務費が高止まりする中で工賃の縮減を図る。工場製作のPCa部材を現場で組みあわせることで粉塵、騒音を軽減し周辺環境に配慮。東京オリンピックを迎えるにあたり建設市場における鉄骨需要の高まりによる納期の遅れや建設費の高騰という鉄骨需要リスクを回避した計画とする。

PCa…プレキャスト
RC…鉄筋コンクリート
PC…プレストレスト・コンクリート



最優秀者に対する選定委員会の講評

庁舎機能が入る「おもや」と「はなれ」、そしてその間を貫通する通路「通り庭」により周辺の環境と取り結ぶ庁舎像を提案した案である。そのコンセプトは非常に明快であり、敷地の中にまちを持ち込むように分棟型の「はなれ」と「通り庭」を配置することにより建物の内部空間と半公共的なオープンスペースを連携させた都市デザイン的にも秀逸な案として高く評価された。「おもや」と「はなれ」の外観についても、少しずつ出ているところ、引っ込んでいるところがまちなみとしての表情をつくっており、上手なヒューマンスケールとなっている。

また、軒下空間、庇下空間として場所をうまく創るとともに歴史あるまち府中の特色を引き出しており、現代の宿場町としてのコンセプトが目を行っている。

「通り庭」については、広場をただの広場とするのではなく、府中駅と府中本町駅をつなぐ結節点として通り抜けられる空間とし、庁舎内の機能と建物内外の市民のアクティビティを両立させる巧みな仕掛けとなっており、また、比較的大きなオープンスペースとしても使うことができるので、災害時の拠点としての活用にも適した提案となっている。

他の案に比べると、今後設計を深化させ工事へと進む過程でコンセプトを崩さずに必要な変更に対応できる巧みな案であるとの意見もあった。

また、比較的高層の「おもや」を1期工事部分となる北側に配置することにより、仮設庁舎を用いることなく1回の引越しで庁舎機能を移転することが可能で、その後の工事も含めて優れた建替計画を提案している点を評価する意見が複数あった。さらに、構造についてもプレストキャストコンクリートの採用などを含めて検討されているため、工事費の見通しの付き難

い建替時期においてもコントロールし易い点を評価する意見もあった。本案はアトリエ系事務所と組織系事務所のチームによる提案であるが、今後のプロセスで双方の長所を活かした発展可能性を期待し評価する意見もあった。

今後の課題としては、外装材の有孔パネルの素材や色彩について、周辺の景観との関係性への配慮が挙げられた。この点は、現提案の時点で詳細に議論することは時期尚早であり、今後設計が深化する段階でふさわしいものとなるよう検討することが求められる。また、「通り庭」にはけやきの植栽が提案されているが、その将来の生育などについても懸念が示され、樹種の選定や配置について更なる検討が必要であるとの指摘があった。これらの懸念は、今後の対話による設計の中で検討され、よりよい設計案へ発展させることが期待される。

府中市の、そしてこの場所にふさわしい庁舎となるよう市と協議し、よりよい案としてまとめられることを期待したい。

府中市新庁舎建設設計者選定委員会委員

(敬称略 五十音順)

委員長	倉田直道(工学院大学名誉教授)
副委員長	田中友章(明治大学教授)
委員	赤松佳珠子(法政大学准教授) 桑田 仁(芝浦工業大学教授) 吉野 誠(府中市副市長)



委員長から市長への答申

府中市新庁舎建設基本・実施設計委託に関する公募型プロポーザル審査報告書より抜粋。詳しくは市ホームページをご覧ください。

選定委員会の様子



1次審査の様子



公開プレゼンテーション会場の様子

選定委員会が行った1次審査では、審査会場に並べられた33者の提案書の前で、選定委員による活発な議論が行われました。

また、2次審査の一環として7月26日に開催した公開プレゼンテーションでは、322人の方にご来場いただき、新庁舎建設に対する関心の高さが示されました。

当日は、提案内容に基づいたプレゼンテーションに加え、新庁舎の模型を使用した、具体的で分かりやすい説明がされました。

また、会場には、今回提案のあった33者の提案書を展示し、特に2次審査でプレゼンテーションを行った5者の提案書は多くの方がご覧になりました。

新庁舎建設シンポジウムの開催

今回決まった設計者や市長などが新庁舎建設に向けた想いを伝えるため、シンポジウムを開催しますので、ぜひご来場ください。※当日は手話通訳があります。

- 日時 10月11日(日)
午前9時半～11時半(午前9時開場)
- 会場 ルミエール府中
- 定員 先着300人(事前申込不要)
- 内容
 - ①基調講演…プロポーザルでの提案内容をもとに、新庁舎の設計への想いをお伝えします。
講演者 上田克行氏、千葉学氏
 - ②パネルディスカッション…「市民に親しまれ、府中らしさを受け継ぐまちづくりの拠点となる庁舎」を目指し、新庁舎建設に向けた考えや想いを語ります。
ファシリテーター 田中友章氏(選定委員会副委員長)
パネラー 上田克行氏、千葉学氏、倉田直道氏(選定委員会委員長)、高野律雄(府中市長)

今後のスケジュール

今後は、設計者とともに平成28年8月まで基本設計を行い、平成29年10月までに実施設計を完成させる予定です。

なお、建設工事などのスケジュールは、今回設計者から提案のあった内容に基づき建替計画を検討していくため、変更する可能性があります。その際には、改めて市民の皆さんにお知らせします。

- 設計作業 平成27年9月～平成29年10月
- 埋蔵文化財調査 平成28年度～平成30年度
- 建設工事 平成30年度～平成33年度

新庁舎建設キャラバン隊

新庁舎建設事業をより広く市民の皆さんに周知し、幅広い方々からご意見をいただくため、市職員によるキャラバン隊を結成し、夏から秋にかけて開催される市内のイベントで本事業のPRを行っています。右ののぼり旗が目印です。

今後の参加予定イベント

- 福祉まつり(10月17日(土)・18日(日))
- 府中リサイクルフェスタ(10月24日(土))
- 東京外国語大学学園祭(11月)



ご意見をお寄せください

現在行っている基本設計では、新庁舎の具体的な機能や構造について検討しています。

新庁舎に必要なと考える機能などについて、ご意見を募集します。いただいたご意見に対して個別に回答はしませんが、今後設計を進める中で参考にさせていただきます。

提出方法

住所・氏名・意見を記入し、郵送、FAX、Eメール、持参などでご提出ください。

提出・問合せ先

〒183-8703府中市宮西町2の24
府中市役所政策総務部政策課庁舎建設担当
電話(335・4129) FAX(366・7752)
Eメール(chousya01@city.fuchu.tokyo.jp)

